

## 執筆者一覧

### 創刊にあたって



辻中 豊 **TSUJINAKA, Yutaka**

国際日本研究専攻長。研究テーマは、市民運動から出発して、利益集団、労働政治、国際ロビー、そして市民社会の13カ国比較政治研究へ。日韓米独中の5カ国に関しては二次にわたり、5万件以上の団体データを収集。

### 研究論文



明石 純一 **AKASHI, Junichi**

研究テーマはアジアにおける移民・難民政策と国際人口移動。最近の調査対象地域は日本およびシンガポール。著作に、明石純一編『移民政策と多文化共生への歩み』ナカニシヤ書店（近刊）など。博士（国際政治経済学）。



今泉 容子 **IMA-IZUMI, Yoko**

専門は、英文学、映画研究、日本文化。最近の社会貢献先は、内閣府（共生社会政策）、関東地方・東海地方の国際交流団体や高校。著書は『映画の文法』、『ブレイク 修正される女』、『スクリーンの英文学』など。



カイザー, シュテファン **KAISER, Stefan**

専門は日本語学・西洋人の日本語研究史・日本語のピジンで、主要論文・著書は「Exercises in the Yokohama Dialect と横浜ダイアレクト」, *Japanese: A Comprehensive Grammar* (Routledge) など。



関崎 博紀 **SEKIZAKI, Hironori**

専門：会話分析、日本語教育学。業績：『「BTS による多言語話し言葉コーパス—日本語2」の作成過程と整備の結果から示されること—会話教育への示唆—』（共著）ほか。

### 研究ノート



崔 宰英 **CHOE, Jae-Young**

主要論文：平成15年「宮城県沖の地震」時の帰宅交通需要の発生特性，土木学会論文集 A Vol. 62, No. 1, 2006. “Exploring the Realities of Japanese Civil Society through Comparison” *ASIEN* 105, 2007.

## 編集後記

まったく何もないところから、冊子をひとつ完成させることは、とてつもなく「ご苦労」な仕事だった。

表紙のデザインや紙質や紙サイズを決めるのは、まだいいとしても、論文のスタイルや査読の基準などを定めるプロセスでは、文字どおり、頭痛が起こった。

紀要だから、構成員に自由に書いてもらいたい、と願っていたが、査読制度が取り入れられたことで、その願いは複雑骨折せざるを得なかった。紀要の査読は、通常の学術誌の査読とちがって、読むほうも、読まれるほうも、居心地が悪い。それにも耐えて、査読員となられた学内・外の先生方に、感謝したい。

なかには、査読に束縛されたくない、という声もある。紀要という性質を考えれば、もっともである。そこで、査読の手の届かないところに、「研究ノート」という枠を設けた。

紀要のタイトルは、専攻の名称が採用されて『国際日本研究』となった。しかし、掲載論文は、「日本」のものばかりではない。そもそも、本専攻の構成員のバックグラウンドにしても、アジア、ヨーロッパ、アメリカ・・・と地球の全域を網羅しているため、むしろ「国際」を強調した論集だといえる。

創刊号は、辻中豊専攻長の「創刊にあたって」という言葉ではじまる。ひとりで専攻を切り盛りする精力のかたまり。彼の声に耳を傾ける人には、いいことが起こる、というジンクスがあるそうだ。どのような言葉が巻頭に記されているか、耳を傾けていただければ幸いである。

『国際日本研究』編集委員長

今泉 容子